【　実践現場のための専門誌「介護福祉士」執筆要領　】

Ⅰ　抄録用紙及び原稿は、汎用的なワードプロセッサまたはパソコンのワープロソフトで作成すること。

Ⅱ　抄録用紙は所定のものを使用し、会員番号、氏名、所属、論文の区分、論文タイトル、サブタイトル、キーワード（５語以内)、抄録（４００字以内）を記入すること。

Ⅲ　論文原稿は、以下を厳守して執筆すること。

1．縦置きＡ４判用紙、横書き、１枚あたり１６００字（４０字×４０行)、で作成すること。

2．和文を書くときは、本文のフォントは明朝体で１０．５ポイント、文献、注は明朝体９ポイントで記号も含めて全て全角文字で作成すること。欧文を書くときには半角文字を使用すること。

3．文字数は図表、注、文献を含めて

①論文　　２万字以内

②研究ノート　　１万字以内

③実践報告　　１万字以内　とする。

なお図表は、１点につき４００字と換算する。１頁全体を使用する図表は１６００字と換算する。

4．図、表等は、本文には「図１」や「表１」と番号をつけて挿入箇所を指定し、別紙にまとめること。別紙にまとめた表や図には、表の場合、表頭中央に題名、図の場合、図下中央に題名をつける。また、データ類を他の文献から引用する場合には，図表の下部に出典を記載すること。

5．書き出しは、タイトルおよびサブタイトルのみを記載し、著者名や所属、会員番号は記述しないこと。

6．見出しをつける場合は、「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」「１、２、３…」「①②③…」「１）２）３）…」の順に使用し、全て全角英数字、全角記号に統一すること。

7．①注は、本文中の該当箇所に上付き文字で[1) 2)]…と注番号をふる。本文の末尾に１行あけて注の欄を設け、すべての注を注番号順に記載する。

②文献の表示は、本文中の該当箇所に（）内で著者名・出版年・引用ページの順で記載する。著者名と発行年の間は半角のスペースを入れ、出版年と引用ページはコロンでつなぐ。

また、注のあとに１行あけて、和文の文献も欧文の文献も含めてすべての文献を，著者または編者の姓のアルファベット順にリストアップする。たとえば、単著の和文の本の場合、著者名，出版年，『書名（タイトル――サブタイトル)』出版社名．で記載する。

③引用する際は、本文中の引用文を「」でくくり、引用文中に「」が使用されている場合は、その箇所を『』に変える。また、引用文が終わってカギカッコをとじた後に、(著者名の姓のみ 出版年: 引用ページ）のかたちで引用した文献等を記載する。長い引用の場合は、左側を全角で２字分字下げして、引用であることを明示すること。

8．本文中の数量の単位（ｋｇ〈キログラム〉やｍ〈メートル〉など）や年号は統一すること。

Ⅳ　抄録用紙、論文原稿の文体は文語体（である調）を使用し、文字は常用漢字、常用数字、新かなづかいを使用すること。ただし専門用語に関してはこの限りでない。

Ⅴ　著者による校正は初校のみとする。

規程に則した執筆例

・本文は横 40 字×40 行に設定
・文字のフォントは明朝体 10.5 ポイントに設定
・和文は全て全角文字、欧文は全て半角文字を使用

30mm

Ⅰ　研究目的

○○○。

Ⅱ　研究方法

○○○。

１対象

△△年△△月時点で、Ａ県内の特別養護老人ホームの全職員△△名を対象とし、回収数は△△票（回収率△△％）であった。

２調査方法

留置法による自記式質問紙調査

３調査実施期間

△△年△△月△△日～△△月△△日

４主な調査内容

職員の経験年数や資格等の基本属性に加え、介護事故の未然防止対策の取り組み状況、ヒヤリ・ハット研修[1)]の参加状況、介護事故発生時の対応等 20 項目について調査を実施した。

５調査に際しての倫理的留意

①調査実施に際して

当該施設の倫理委員会に承認を得るとともに、調査対象者への調査目的の説明を行い協力の同意を得た。

②調査データの取り扱いに際して

対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行った。

30mm

６分析方法

職員の経験年数や資格等の基本属性、研修の参加状況については単純集計およびクロス集計で示した。研修参加と介護事故発生時の対応との関係の検討にはカイ二乗検定を用いた。

Ⅲ　結果

○○○。

（図１を挿入）

図表は挿入箇所を指定し別紙にまとめる

Ⅳ　考察

○○について矢原隆行は、「□□□□□□」（矢原 2010：5-8）と述べており、○○○

Ⅴ　結論

○○○。

・注は該当箇所に上付きで番号をふり、文末にまとめて記述する

注

1）ヒヤリ・ハット研修とは、○○○○○○○○である。

2）○○○○○○○○。

・WEB サイトから引用する場合は、著者、発表年、サイトのタイトルに加えて取得日（アクセス日）と URL を（）内に記載する

文献

伊木康人・森永敬宣，2011，「介護技術の活用と介護者の腰痛発生の現状――ボディメカニクスの基本８原則に関する調査から」『介護福祉士』16：19-23.

介護労働安定センター，2013，「平成 23 年度 介護労働実態調査」，介護労働安定センターホームページ（2013 年 5 月 23 日取得，http://www.kaigo-center.or.jp/report/h23_chousa_01.html).

厚生労働省，2012，『厚生労働白書〈平成 24 年版〉』日経印刷.

矢原隆行，2010，『よくわかる介護福祉研究入門――現場の気づきから課題解決、成果の共有、そして社会発信へ』保育社.